



メキシコでの生活が始まり1カ月半が経過しました。少しずつ生活にも慣れ、できるようになることも徐々に増えてきたように感じます。

日本は冬らしくなっていると思いますが、メキシコではまだ日中は20°ほどあり、暖かいです。しかし、夜は寒く寒暖差が激しいので体調管理に気をつけないといけません。

メキシコの大イベント「死者の日」

11月メキシコでは死者の日と言われる日本のお盆に当たるイベントがあります。死者の日は、映画「リメンバー・ミー」の題材にされており、ご存じの方も多いのではないでしょうか。

具体的な日付としては、地域によって多少の差はあるようですが毎年11月1日～2日にかけて行われます。



お墓の入口の様子

11月2日に死者の日の聖地と言われているミスキックという街に行きました。ミスキックはメキシコシティの郊外の方にあるのですが、やはり聖地と言われているだけのことはあり、とてもたくさんの人で賑わっていました。

教会の前にあるお墓への入口にたどり着くまでに行列ができており、常に人と密着しているような状態でした。お墓までの道のりはたくさんのお店が並んでおり、普段私が住んでいるメキシコシティでは見掛けない食べ物や民芸品が売られていました。



中に入ってすぐにとっても大きなお墓があり、たくさんの人がそのお墓の周りを囲んでいました。

お墓には様々な種類のお花が供えられており、とてもカラフルで明るい印象を受けました。

日本のお墓にお供えする花は、菊の花などが一般的でシンプルなものが多く、お墓がカラフルに装飾されているイメージを持っていなかったため、とても新鮮でした。

また日本のお盆はどこのお墓でもお墓の周りでは静かに参りすると思いますが、メキシコではそれぞれの家庭で異なるようです。静かに語り合っている家庭もあれば、お酒を飲んで盛り上がっている家庭もあり、日本とメキシコの文化の違いを肌で感じる事ができました。

死者の日に主に使われている花のマリーゴールドは、死者を導く役割があるとされています。死者の日のお墓の周辺はマリーゴールドの花の香りがするのですが、その香りを辿ることで、亡くなった人の魂がきちんと戻ってくるとされているそうです。



マリーゴールドがふんだんに使われているお墓



オフレンダ

死者の日にはオフレンダと呼ばれる祭壇を飾ります。祭壇には、マリーゴールドやパペルピカドと呼ばれる切り紙で作られた物、亡くなられた家族の写真やろうソク、好きだった食べ物、飲み物が飾り付けられます。

オフレンダはそれぞれ見た目や中身も異なり、たくさんの想いが込められています。



11月4日には、メキシコシティで死者の日のパレードがありました。チャプルテペック公園からソカロまでの約8キロの道が歩行者天国になっており、その道をたくさんの人たちがダンスや楽器のパフォーマンスなどをしながら、歩いていきます。約8キロもあるので昼頃に始まって終わるのは夕方（ほぼ夜）です。

私は見えやすい場所で見るとためにパレードが始まる2時間程前から場所を取りに行きましたが、すでにかなりの人がそれぞれの場所を取って待機していました。



パレードではカトリーナメイクという骸骨のメイクをした人たちが歩いています。人によってメイクは様々で、メイクの違いを見るだけでもとてもおもしろいです。

パレードはそれぞれの街ごとに特色を活かした服や物などが用いられるため、インターネットでそれぞれの街について調べたりするよりも街ごとの違いがわかりやすかったです。



別日のソカロの様子

死者の日のパレードがあった後日、ソカロへ行きました。死者の日が終わった後でも、ソカロは多くの観光客で賑わっていました。

11月は死者の日という貴重な体験をすることができました。今回の体験を通して、日本のお盆もメキシコの死者の日も、先祖を大切にするという共通点があることがわかりました。

これからも引き続き、毎日時間を大切にしながら、メキシコ文化について理解を深めていきたいと思います。